

■企画展『森鷗外と赤松家』 P1~2
■自由研究コンクール表彰式をおこないました P3
■昔懐かしの写真を募集 P4
■コラム『天竜川の出発点、釜口水門』
橋川眞貴子 . P4

旧赤松家記念館開館 20 周年記念企画展

もり おう がい
森鷗外と赤松家
~小説「舞姫」^{まい ひめ}から探る~



展示室風景

日時:開催中 ~12月27日(金)まで
9:00~16:30 (月曜日休館)
場所:旧赤松家記念館 米蔵
(磐田市見付3884-10)

今年、旧赤松家記念館は開館 20 周年を迎えました。これを記念して、現在、邸内の「米蔵」にて、小説「舞姫」から探る『森鷗外と赤松家』をテーマにした企画展を開催しています。是非、ご鑑賞ください。

森鷗外の小説「舞姫」とは？(あらすじ)

ドイツへ留学した官僚の太田豊太郎は、踊り子エリスと恋に落ちる。職を失い、エリスと暮らし始めた豊太郎だが、親友で大臣秘書官の相沢謙吉に、出世の道に戻るためにはエリスと別れることだと諭される。豊太郎は葛藤の末、寝込んでしまう。

その間に、相沢はエリスに対し、豊太郎がエリスとの仲を絶つこと、帰国の誘いに承知したことを伝えた。この時、既にエリスは妊娠していた。

エリスはショックを受け、精神を病んでしまう。豊太郎は結局、エリスの母親につつましい生活を送れるくらいの金を渡し、産まれてくる子供を頼んで、帰国の途についたのである。

森鷗外と赤松家と「舞姫」

明治の文豪として知られる森鷗外(本名・林太郎 1862~1922年)は明治17年(1884)から明治21年(1888)にかけて、陸軍軍医としてドイツへ留学していました。帰国直後、彼を訪ねてエリーゼというドイツ人女性が来日します。エリーゼは結婚を望んでいたのですが、鷗外の家族の反対で、ドイツへ帰国しました。

エリーゼが帰国した約5ヶ月後の明治22年(1889)3月、鷗外は海軍中将・男爵である赤松則良の長女、登志子と結婚します。しかし、結婚生活は1年半ほどで離婚に至ります。

「舞姫」が発表されたのは、この結婚生活の間のことでした。「舞姫」の豊太郎とエリスのストーリーは、森鷗外とエリーゼのことを描いた、自伝的要素が含まれていると言われ、発表当時話題になりました。

みどころ1 小説「舞姫」は創作か、実話か

「舞姫」の登場人物は、相沢謙吉を除いてどれも実在人物の名前とよく似ています。それらを、実在の人物名と並べて紹介するほか、近年の「舞姫」研究についてもご紹介します。

「舞姫」には鴎外の体験が投影されています。それはドイツ留学を果たした鴎外が垣間見た日常の風景だけでなく、自身の恋愛体験も含まれています。その恋も悲恋に終わり、鴎外自身もまた、心の整理をつけるために執筆していたことから、この物語は悲恋で幕を閉じなければなりません。しかし、書かれている事柄のすべてが事実ではありません。いくつもの創作部分が織り込まれ、純文学作品として仕上がっています。



森鴎外

※肖像写真出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

みどころ2 森鴎外と赤松登志子の結婚に至るまでの経緯、両家を巡る華麗なる系譜

明治21年(1888)9月に4年間の留学を終えて帰国した森鴎外と赤松則良の長女・登志子はどのような経緯で結婚に至ったのでしょうか。森家、赤松家、それぞれを巡る家の系譜とあわせてご紹介します。

両家の系譜・関係者の中には、順天堂大学の基礎をつくった佐藤泰然、その息子であり陸軍軍医総監であった松本良順と林研海、そして海軍中将である赤松則良など陸軍・海軍の主要な職責を担う人物や、則良と共にオランダへ留学した榎本武揚、西周など名だたる人物が登場します。

ぜひ、会場でご確認ください。

みどころ3 赤松登志子の関連資料

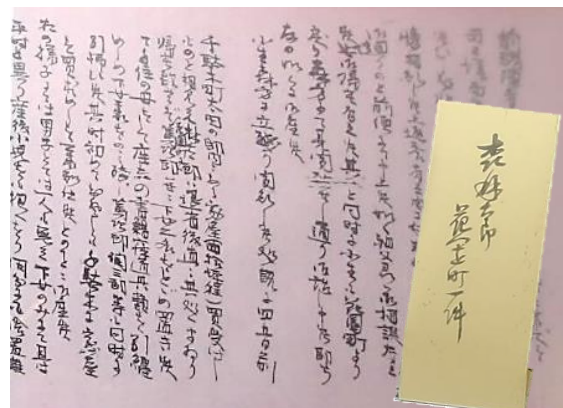


登志子の婚姻にあたり、各家からの贈り物の一覧(控)

赤松登志子はどのような女性だったのでしょうか。会場では、赤松登志子の関連資料も展示しています。

箏曲(琴)の免許状や、婚礼時の贈り物を記した『婚儀ニ付諸家贈り物之記 控』のほか、則良の長男・範一が父・則良に宛てた、妹・登志子の離婚に至る経緯をしたためた草稿の複製品も展示しています。

また、森鴎外と離縁後の登志子についてや、登志子が亡くなった際の森鴎外の記した『鴎外日記』の内容もご紹介します。



森鴎外・登志子の離婚の経緯に関する書簡(複製品)

平成24年に発見され、離婚に関して赤松家親族から初めて明らかにされた資料。

当時の森鴎外を知る赤松家側からの史料としても貴重といえる。



第1回

磐田の歴史自由研究コンクール 表彰式をおこないました！

文化財課イメージキャラクターともちゃん

10月22日（火）、磐田市役所にて『第1回 磐田の歴史自由研究コンクール』の表彰式をおこないました。応募作品のうち特に優秀な4名の小学生に、山本教育長から表彰状と記念品を授与しました。

磐田の歴史自由研究コンクール



磐田の歴史自由研究コンクールは、市内の小学校5・6年生を対象に、郷土への関心を高め、子どもたちの「自主性」「主体性」を持った学びを支援するため開催しました。今年度は24作品の応募がありました。

表彰状を持って記念撮影

市内全域や自分が住んでいる地域の歴史・文化、磐田市外の地域との比較、実際に体験した民俗文化財など、子どもたちそれぞれの興味のある分野の研究結果が集まりました。

教育長賞を受賞した藁科さんは「家族に協力してもらいながら、磐田や関西の古墳へ実際に足を運んだり、写真を撮ってまとめた」と語ってくれました。

応募いただいた研究成果は「ひと・ほんの庭にこっと」と「磐田市情報館」の2会場で展示をおこないました。

【受賞作品】

教育長賞

「磐田の古墳を調べる」豊田東小 藁科翔太

文化財課長賞

「明ヶ島飛び念仏体験記」田原小 高尾郁弥

優秀賞

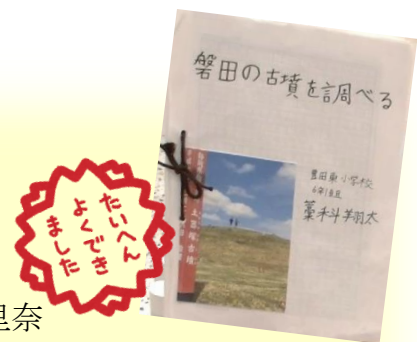
「古墳時代のいわたと馬のはにわ」竜洋東小 齊藤江里奈

優秀賞

「天下人、徳川家康が磐田との関わりが深いのはなぜ!？」磐田中部小 大石茉侑



磐田市情報館での展示

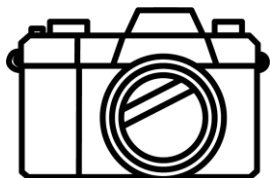


来年度も開催予定です。みなさんの研究お待ちしております！

昔懐かしの写真を募集

2025 年は、昭和が始まって 100 年目を迎えます。歴史文書館では市内の風景・行事・災害など昭和の様子が見える写真を収集しています。写真をお持ちで、寄贈・複写または公開を許可していただける方は、歴史文書館へご連絡ください。

※受け入れは、当館職員の判断となります。



●募集内容●

市内で撮影された写真でおおよその撮影年や場所がわかるもの

●連絡先●

磐田市歴史文書館 電話 0538-66-9112

職員リレー コラム 天竜川の出発点、釜口水門

橋川 眞貴子

先日諏訪湖へ訪れた際、磐田との関わりはないかと調べたところ、諏訪湖に天竜川の出発点があるとわかりその水門を訪ねてきました。

長野県赤岳を源として 31 本もの河川が諏訪湖へ流れ込み、そこから唯一流れ出るのが天竜川で、その出口が釜口水門といいます。昭和 11 年に一代目、昭和 63 年に二代目が建設され現在の水門となっています。水門から天竜川が南に折れる川筋に「天竜町」という地名があったり、「天龍」という鰻屋さんがあったりと親近感を感じました。

天竜川は、諏訪湖から流れ出て、伊那谷の中央を流れ、天竜峡にたどり着き、山間部で佐久間・秋葉・船明の各ダムを通り遠州灘に注がれる全長 213 km の一級河川です。

帰りには天竜川に沿って国道 153 号を南下してきました。途中、川から離れたり、また近くに寄ったりと「竜」の字が付いているだけあって曲がりくねった川の様子がよくわかりました。

12 月 20 日（金）まで磐田市歴史文書館では、『船と材木と掛塚港～「掛塚港廻船之碑」 建立 100 年～』を開催しています。天竜川を木材が下ってきた過程がよくわかる企画展です。ぜひお越しください。



釜口水門から望む天竜川

磐田市歴史文書館企画展のみどころは、右二次元コードからご覧ください。

12 月 8 日（日）には特別開館も予定しています。



編集後記
今年はどうな年だったでしょうか。私は、色んなことにチャレンジした 1 年でした。来年は、それらを続けられるような年にしたいと思っています。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB 版は市 HP から閲覧できます。磐田 文化財だより

検索